

平成28年度 学校評価書

山形県立鶴岡南高等学校

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

領域	重点目標	達成度	成果(○)と課題(●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
教務課	SSHとしての教育課程の円滑な運用に努める。特に、研究開発校として重要な学校設定科目におけるカリキュラム開発や教材開発を支援する。	C	○●教育課程はトラブル無く運用されているが、SSH科目等の研究開発はさらに進める必要がある。SSH継続申請に向けての学校設定科目の新設やさらなる研究を進める。 ○「生徒にメリハリのある生活を送らせ」「帰宅後の学習時間を確保する」ための下校時間徹底は概ね守られている。これを家庭学習時間増加に繋げることが課題。 ○年3回の研究授業期間、早期のシラバス発行など授業改善の取組みは定着している。SSH校として外部に公開する機会が多いことも、授業改善に繋がっている。	C 楽しく鶴南ゼミで発表する生徒の皆さんが印象的でした。
	学年団や各教科担当・部活動顧問と協力して、生徒にメリハリのある生活を送らせながら、家庭学習時間を充実させるための具体的な方策を実施する。	C		
	成績処理システム・指導要録電子化・入選処理システム等について、安定運用のための改善を進める。	D		
	授業改善のために校内研究授業・授業評価・シラバス等の活用を図る。	C		
	関係業務の見直しを行い、必要性の高い業務に重点的に取り組む。	C		
進路指導課	早期の進路希望確立を目的として、1,2学年のうちから大学オープンキャンパスへの参加を積極的に勧める。特に、本校生の希望の多い大学については、年1回以上引率を伴う見学会を実施する。	C	○センター試験では、総合で県内2位、上位層も多く健闘してくれた。国公立の推薦でも8名(東北5名、千葉2名、山大1名)合格出来た。また、私立医学部医学科の推薦でも1名合格。 ○キャリア教育の一環として、アカデミックインターンシップでは1,3年生対象に地元企業22社から企業説明受け、東北公益大学の平尾先生から起業家精神を学ぶことができた。	B アカデミック・インターンシップは良い試みだが、多様な企業・機関が加わることを期待する。
	キャリア教育の視点に立ち、職業観の育成や将来専攻する学問分野の決定を目的として、社会人や大学教員を招いての講演会や模擬授業を年2回以上実施する。	B		
	超難関大学・学部学科10名以上、難関大学20名以上、国公立大学140名以上の合格達成に向けて取り組む。	C		
	SSH事業、進学指導重点校学力向上推進事業を効果的に進路指導に活用する。	C		
生徒指導課	日頃からの生徒指導をとおし、“問題行動0、交通事故0、いじめ発生0”を目指す。	D	●問題行動に対する特別指導を2件実施した。SNSの利用については重ねて注意を喚起する必要がある。 ○アーチェリー部、弓道部、水泳部、陸上部、科学部、将棋竜王戦(設置外活動)が全国大会に出場し、個人入賞も果たした。	C 文武両道は良いことだと思います。自転車マナーは家庭で指導すべきだと思いますが、PTAでも課題にしたらどうでしょうか。
	生徒会行事において、全校生徒の8割以上が達成感をもてる内容を目指す。	C		
	ロングホームルーム活動計画に「自他の生命の尊重」「心の豊かさ」等の心の育成につながる内容またはボランティア的な企画を、年間1回以上組み込む。	D		
	部活動において全国大会へ団体3種目以上、個人5名以上の出場を目指す。	B		

領域	重点目標	達成度	成果(○)と課題(●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
総務課	「PTAの日」をはじめとするPTA独自事業に、より多くの参加が得られるような工夫を行う。また、PTA役員とのより良い連携のあり方を研究する。	C	○「PTAの日」の参加者が397名(65.9%)で目標の6割を達成できた。また、保護者による朝のあいさつ運動などで成果をあげた。○災害時の連絡体制を「マメール」という民間企業に委託し、順調に運用されている。○保護者アンケートは8割以上回収できた。また、保護者からの自由記述による要望に、学年便りを通じて、直ちに回答した。 ○校内倫理委員会を2回開催し、倫理観・規範意識の涵養や資質の向上に努めた。	C
	防災マニュアルの定着をはかり、より実効性のある危機管理体制の構築を目指す。緊急時における職員間及び生徒・保護者との連絡体制については、業者委託を継続し、未登録者の減少に努める。年2回の防災訓練により生徒教職員の危機管理意識の向上を図る。	C		
	学校評価のあり方(実施時期、分析方法、活用方法など)を検討し、8割以上の回収率を目指すとともに、校内反省会とのより効果的な連携のあり方を研究する。	C		
	年2回の校内倫理委員会を通じて教職員の倫理観・規範意識の涵養をはかる。	C		
保健課	清掃活動を徹底し、学習環境を整える。特に、行事の後や夏季休業中は、特別に分担区を指定し、校舎内の美化に努める。	C	○生徒保健委員会による用具点検や定期的な清掃点検などを通じて校舎内の美化に努めた。夏季休業中も特別分担区清掃を行うことで、清潔な環境を維持することができた。 ○保健だよりの定期的な発行により、その時期に合わせた必要な情報を提供することができた。 ○特別支援の必要な生徒については、カウンセラー・担任団・医療機関などと連携しながら、適切に対応している。 ○感染症拡大予防のため、注意の喚起や情報提供を行った。 ○産業医との連携により、職員の精検率を高めることができた。	C メンタルヘルスについて今後も取り組みを強化してほしい。
	「保健だより」を隔月発行し、生徒に健康情報を提供する。また、食育に関する情報提供を適宜発行する。	C		
	MC委員会を適宜開催し、メンタルヘルスケアに努めるとともに、学校カウンセラーや教科・学年担任団・家庭との連携を図り、該当生徒に適切に対応できるようにする。	C		
	感染症に関わる情報を調査し、感染拡大を防止する。	C		
	産業医との連携を強化し、職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に努める。	C		
図書情報課	SSH・鶴南ゼミにおける図書・視聴覚教材・教具の効果的な活用を研究し、環境を整備する。	C	○普通教室に無線LANのアクセスポイントが設置された。 ○校内の視聴覚教材の位置と数を台帳で確認し更新した。 ○授業での図書館利用が増加したが、貸出冊数は減少した。 ○HPは更新の頻度は多くなっており、情報発信としての機能は強化している。 ○グループウェアの閲覧者は全職員が毎日目を通しており、各種の連絡事項の情報を共有している。 ○LL教室内の消耗品代を学年に負担してもらった。 ●iPadの故障破損の修理を速やかに実施する。 ●データの保存や発信に関して、モラルを継続徹底していく。	C
	図書館の利用促進及び読書指導の研究を行い、本校の特性にあった運営を図る。	C		
	読書、図書館利用の習慣化を図るため、「LHR読書の時間」や「コンテストへの応募」などを実施する。	C		
	鶴岡南高校の情報セキュリティポリシーの周知と啓蒙を行う。	C		
	学校ホームページの更新をより活発にし、SSHなどの活動を積極的に発信する。	C		
	グループウェアの使い方・デザインなどを研究し、職員相互の情報共有を図る。	C		
事務部	校内における事故防止のため、保健課との連携を図る。年8回以上の合同安全点検を実施する。	C	○安全点検を毎月実施し、問題個所については速やかに対応して、施設・設備の保全と安全の確保に努めた。●用紙類の使用量は目標を達成できる見込みであるが、光熱水及び電力使用量については、前年度を上回っているため、増加原因を調査し、次年度に向けて対策を検討する。	C
	光熱水・用紙類の使用量は、対前年度使用量の維持に努める。特に、電力使用量については前年度比マイナス3%を目標とする。	D		

領域	重点目標	達成度	成果（○）と課題（●）	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
1 学 年	SSH の趣旨に沿い、「探究」への興味関心を高める。	C	○生徒が意欲的に学校生活を送ると共に、健康への配慮ができ、実質的な出席率が99%を超えた。各家庭での支援にも感謝したい。 ○PTAの出席率は80%を超えなかったが、平均して70%近くになり、保護者との連携を図ることができた。クラスPTAにも多くの参加者があり、理解を深められた。 ○目標偏差値60超には至らなかったが、7月、11月進研とも県内2位の成績であった。生徒の頑張り进行评估したい。 ●退学者、転籍、長欠者が数名出てしまった。鶴南での学習に上手く対応できない生徒に対して、担任を中心に保護者との連携など、できる限り対応を行ったが改善に至らなかった。家庭環境も少なからぬ影響があると思われる。プライベートな問題もあり、対応に苦慮した。 ●家庭学習時間が3時間に至らなかった。疲労や通学時間等の関係で難しかったようだが、休み時間等でそれを補うために努力する姿が見られたことは評価できる。	C Bの達成度があつてよかった。
	単位未修得、長期欠席、いじめ「0」を目指す。	D		
	出席率99%以上を目指す。	B		
	保護者からの学校評価項目のうち、「各種相談や問い合わせに対して、教職員は親切で誠意をもった対応をしている。」の「あてはまる」が、60%以上になることを目指す。	D		
	学年PTAの出席率80%以上を目指す。	C		
	家庭学習時間が平均3時間となるよう指導する。	D		
	模擬試験における全体平均偏差値60以上を目指す。	C		
2 学 年	SSH の趣旨に沿い、鶴南ゼミで自ら課題を設定し、調査研究を進め、その成果をわかり易くプレゼンテーションする力を養う。	C	○鶴南ゼミへの積極的な取り組みにより、進路研修を成功裡に終えることができた。また、外部の各種コンクールや部活動で、優勝・入賞を果たすなど、活躍を見せた。 ○PTAの出席率は平均して65%近くになり、保護者との連携を図ることができた。クラスPTAも回数多さとともに、多くの参加者があり、情報交換や交流を深めることが出来た。 ○目標偏差値60超には至らなかったが、11月進研の結果が上昇傾向を見せ、県内第2位であった。 ●長欠者が1名でてしまった。担任を中心に保護者と連携し、改善を図っている。 ●家庭学習において、取り組みの質と量に格差が見られた。各種活動による疲労や通学時間等も関係しているが、進路目標の明確化とともに、より向上できる時間活用の工夫が望まれる。	C Bの達成度があつてよかった。
	進路研修（台湾）を通じて異文化理解を深め、英語でのプレゼン力を高めさせる。	B		
	全員が全ての単位を修得し進級させることを目指す。	C		
	心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。	D		
	学年PTAを適切な時期に開催し、保護者の出席率70%以上を目指す。	D		
	模擬試験における各教科の平均偏差値60以上を目指す。	D		
	主体的な学習を促し、家庭学習の質（方法・徹底度）と量（3時間以上）を目指す。	C		
3 学 年	SSH の趣旨に沿い、個々の能力や技術を向上させ、進路実現を目指す。	C	○各ゼミでテーマ（仮説）設定⇒調査・研究・分析⇒発表の力が育成され、それを基礎力として進路実現に向けて準備をし成果を上げた生徒もいた。 ○欠課が多かった数名の生徒も後半には改善が見られ、全員が全ての単位を習得して卒業を認定された。 ○各自が学習の質と量を考えながら主体的に取り組み、模試やセンター	C Bの達成度があつてよかった。
	全員が全ての単位を修得して卒業する。	B		
	進路実現に向けて主体的な学習を促し、学習の質（方法・徹底度）と量（4時間以上）の向上を目指す。	C		

	模擬試験における各教科科目の平均点偏差値60以上を目指す。	C	試験等で成果を挙げた。	
	心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。	D	○5教科総合で偏差値60を越える事は出来なかったが、年間を通じて国数英の教科バランスは良く、それに加えて理科・地歴の好成績がセンター試験での成果につながった。	
	学年PTAの出席率75%以上を目指す。	D	<5教科総合平均点偏差値>6月マーク：57.1、7月記述：57.2 9月マーク：54.5、10月記述：56.5、11月マーク：54.3 センター：総合平均点 616.1 (前年度 611.9) ●年間の出席率は98.8%だった。学年PTA出席率は約70%だった	